



▼茅葺き職人 相良育弥さん



茅ふきたより

巻頭インタビュー

茅葺きは人間の巢で営みそのものですね。昔から地元の材と知恵でつくられ、ヒトの先祖も虫も植物も同居させて、最後は「おかゆ」のように土にかえる。

相良育弥さん 茅葺き職人 32歳

神戸市北区生まれ

淡河かやぶき屋根保存会 くさかんむり代表

も く じ

- 01 巻頭インタビュー 相良育弥さん
- 02 会からの報告 第三回茅葺きフォーラム開催
福島県天栄村にて
- 04 会からの報告 第三回茅葺きフォーラム見学会
福島県天栄村、下郷町、南会津町
- 05 理事の紹介 茅葺きとの出会い
理事の紹介 茅葺きとわたし
- 06 第一回茅葺きの里見学研修会
新潟県佐渡市にて
- 08 ニュース・イベント情報

平成7年1月の阪神・淡路大震災のときは中学3年、16歳でした。周りのライフラインが止まってしまった時、中3なのに、自分が何も出来ない。あ、カッコワルイなあと思った。

その頃はミュージシャンになろうとして、DJとか、音の作品で自分を表現してたんですけど、電気がないと音も出ない。自分にダサさを感じながら、もっとシンプルになろうと考えて周囲を見まわしたら、宮沢賢治の「農民芸術概論綱要」に出合った。心に響いて、よっしゃ、米をつくろうと。そんで淡河（おうご）のじいちゃんとかあちやん家に行って、10年ぐらい一緒に暮らしました。住まないとわからなかったことがいっぱいあり、音が出せる環境もあって、ものすごい財産になりましたね。

それからいよいよ自分も田んぼを借りて、さで、と思ったら減反で米がつかれない。先へ進まない。そんな時に、守さんから茅葺きのアルバイトに誘われたんです。で、神戸の現場に入って、塩澤実さんに会った。その時に「百姓はまだ3姓ぐらいやが、茅は10姓ぐらいあるよ」と言われたんです。百姓を目指してた自分の延長線上に、茅葺きがありました。

塩澤さんに弟子入りしたのは26歳ですね。それで5年間の修業を経て、平成23年の春に独立

しました。自分では、百姓から出発してるの

で、お施主さんには可能なかぎり融通をきかすことが多いのです。茅屋根を葺けば20〜30年はもたせたいが、時にはお施主さんの都合に合わせて仕事もします。世代が変わると、家に対する思いや価値観がいろいろ変わります。厳しいことの方が多いです。でも、自分では、DJから拾ってくれた茅葺きなので、茅葺きでお施主さんの喜ぶことをしてあげたい。だから茅払いもOKで、茅刈りにお施主さんも参加すれば茅代も引いてますよ。

茅葺きの家を残すためには、「茅葺きが好き」「楽しく住みたい」という声を多くすることが大事だから、ワークショップは自分から数多くこなしてます。積極的に屋根の上から地面に降りてきて、茅葺きをいろんな角度から考える。塩澤さんが始めた茅のワークショップを、間口を広げてさらにつなぐ。デイケアセンターの4階建てビル屋上につくった、三角形の茅葺き小屋なんかでは、おじいちゃん、ばあちゃんが昼寝したり句会したり。ビルへの断熱効果も高いんです。さまざまの意味で、シンプルさを茅葺きは目覚めさせてくれます。（聞き手・坂本善昭）

会からの報告

第三回茅葺きフォーラム開催 福島県天栄村にて

「森の資源が循環する地域づくり」

茅葺きによる福島復興の取り組み

平成23年3月11日の東日本大震災から約1年3ヶ月。被災地のひとつである福島県の天栄村において、第3回茅葺きフォーラムが開催されました。茅葺き文化をとおしてできる震災復興への取り組みとその可能性について、様々な方からお話を伺いました。

小雨が降る中、会場である天栄村羽鳥湖高原交流促進センターには、全国各地から約150名の方が集いました。当協会 安藤邦廣代表理事と、天栄村 添田勝幸村長の開会挨拶に続き、第1セッション「茅葺きによる福島復興の取り組み」が、当協会 米山淳一理事を座長に始まりました。まずは、当協会が研修などで日頃からお世話になっている大内宿の吉



▲安藤邦廣代表理事



▲添田勝幸天栄村長



▲会場の様子

村徳男さん（大内宿結いの会顧問）に「茅葺き屋根と歴史街道」というタイトルで、大内宿の茅葺きとその取り組みについてお話をいただきました。

続いて、はりゅうウッdstudioの芳賀沼整さんと滑田崇志さんに「地形舞台——湯本の台所・湯本の舞台・湯本の座敷としての古民家の活用——」というタイトルで、天栄村湯本地区でのプロジェクトのひとつである茅葺きの古民家再生についてお話をいただきました。本プロジェ

クトの対象となる「智恵子邸」の再生を、単に昔のままの茅葺き民家への再生ではなく、地域性や周辺環境を含めた「現在」に溶け込む再生と捉え、調査やワークショップを実施し、その結果を反映して、地域食材を使った食堂や野菜の直売所、土間からの連続した空間としての屋外舞台など、様々な利用ができる複合施設としての可能性についてお話しくださいました。

第1セッション最後は、IORI倶楽部の金親丈史さんと、富士勇和産業の長田友和さんに「茅葺きと仮設住宅」というタイトルでお話しいただきました。震災後、福島県いわき市に建設された板倉の仮設住宅において、断熱材として使わ



▲第1セッション、パネリスト

れた茅についてご説明くださいました。仮設住宅としての役目を終えた板倉仮設住宅は、現地で復興住宅として使用されたり、解体された場合、茅は近隣での葺き替えの材料や肥料として再利用することができると、循環型の建築です。災害時の「茅」の利用の可能性について、将来に繋がる取組みと言えます。

第1セッション終了後は、恒例のティータイム。天栄村の皆さんが準備してくださった、村特産のヤーコン茶や、銘菓「しおがま」、「あんぱん」をいただきながら、他の参加者としてしばし談笑をし、情報交換をしました。



▲ティータイムの様子



▲第2セッション、パネリスト

ティータイム終了後、第2セッション「森の資源が循環する地域づくり」が、当協会 上野美帆理事を座長に始まりました。まずは、東北大学名誉教授 新妻弘明さんに「地域エネルギーによる地域再生 天栄村湯本 EIMY の取り組み」というタイトルでお話いただきました。エネルギーの地産池消を意味する EIMY (Energy In My Yard) の実践的取り組み「EIMY 湯本プロジェクト」では、天栄村湯本地区における古来の EIMY、そしてその崩壊過程について調査・研究をし、それを踏まえて EIMY を再構築し、エネルギーや人材等の地域内自給やエコツアアの企画など、持続可能な地域の仕組み作りを行っていくということについて、説明していただきました。

続いては、高知県梼原町環境モデル都市推進課の大崎光雄さんに「茶堂の心と生きものに優しい低炭素なまちづくり」というタイトルでお話いただきました。梼原町における、「共生と循環のまちづくり」への取り組みとして、地中熱や風力、太陽光発電等の自然エネルギーの利用などの「自然との共生を高める」取り組みや、木質ペレットの生産・利用や CO2 森林吸収プロジェクトなどの「循環型社会をめざす」取り組みについてお話がありました。

フォーラム最後は、愛媛大学農学部助教の当真要さんに「持続的な茅の利用と炭素の吸収—土壌への炭素蓄積」というタイトルでお話いただきました。当真さんが熊本県阿蘇市のススキ植生の草地で行った草地の炭素含有量の調査結果から、茅場が、炭素蓄積の高い能力を持っていることが分かりました。そのことから、茅場が環境問題の解決に重要な役割を担うことが今後認められれば、近年困難になっている茅場の維持に補助が出るなどし、結果的に茅葺き文化の保全に繋がるのではないかと、という期待が膨らむお話がありました。

会場との質疑応答も盛り上がり、茅葺きフォーラム最後は、次回開催予定地である静岡県富士宮市の紹介で締めくく



▲須藤秀忠 富士宮市長

がひしひしと伝わってきました。閉会後の、岩瀬湯本温泉集会所での情報交換会では、美味しいお料理とお酒も加わり、話が尽きない夜になりました。(理事 内海美佳)

られました。富士宮市からは、市長はじめ多くの方が参加してくださり、来年開催への熱意

■大会プログラム 2012年6月9日(土)

第3回茅葺きフォーラム

「森の資源が循環する地域づくり 茅葺きによる福島復興の取り組み」

総司会

内海 美佳 (日本茅葺き文化協会理事)

あいさつ

日本茅葺き文化協会代表理事 安藤邦廣 (筑波大学教授)

天栄村長 添田勝幸

第1セッション「茅葺きは地域資源」

座長 米山淳一 (日本茅葺き文化協会理事・地域遺産プロデューサー)

「茅葺き屋根と歴史街道」 吉村 徳男 (ふくしまけん街道交流会)

「地形舞台—湯本の台所・湯本の舞台・湯本の座敷としての古民家の活用—」

芳賀 沼整・滑田 崇志 (はりゅうウッズスタジオ)

「茅葺きと仮設住宅」 金親 丈史 (IORI 倶楽部)・長田 友和 (富士勇和産業)

ティータイム 情報交換

第2セッション

座長 上野 美帆 (日本茅葺き文化協会理事)

「地域エネルギーによる地域再生 天栄村湯本 EIMY の取り組み」

新妻 弘明 (東北大学名誉教授)

「茶堂の心と生きものに優しい低炭素なまちづくり」

大崎 光雄 (高知県梼原町環境モデル都市推進課)

「持続的な茅の利用と炭素の吸収—土壌への炭素蓄積」

当真 要 (愛媛大学農学部助教)

情報交換会

■見学会 2012年6月10日(日)

〈見学 A コース〉

岩瀬湯本～下郷町大内宿～湯野上温泉駅

〈見学 B コース〉 岩瀬湯本～下郷町大内宿～南会津町水引集落～前沢集落



▲情報交換会の様子

会からの報告

第三回茅葺きフォーラム見学会

福島県天栄村、下郷町、南会津町

午前中は岩瀬湯本地区の茅葺きの旅館や集落内を見学し、下郷町の大内宿にて昼食をとりました。日本唯一の茅葺きの駅舎のある湯野上温泉駅にてAコースは解散。さらにBコースとして、南会津町の水引集落と前沢集落を見学しました。



▲岩瀬湯本 奥に見えるのが茅葺き温泉旅館



▲湯野上温泉駅



▲大内宿



▲水引集落 畑に茅が施してあった



▲水引集落



▲前沢集落 民家の内部



▲前沢集落

理事の紹介

茅葺きとの出会い

財団法人都市農山漁村交流活性化機構

調査役 上野 美帆

こんにちは。当協会で理事を務めております上野です。本号は「ダブル上野でよろしく!」ということで書かせていただきました。

私と茅葺きの出会いは、平成13、14年度に担当した「全国茅葺き民家調査」です。

この調査は農林水産省の補助事業で実施したもので、美しい農山漁村の景観形成という観点から、農山漁村固有の建物として「茅葺き」に焦点を当て、日本にある茅葺きの実態を出来る限り調査をし、その利活用を考えるというものでした。

今思えば、よくぞ国の事業で調査が出来たなあと思いますが、安藤代表理事をはじめ、茅葺きや建築の専門家の方々、各地で茅葺きを調査されている方、茅葺き所有者、行政関係者など、茅葺きに関心と愛着のある大勢の皆さまのご協力のもと、全国アンケート調査と123地区での現地調査を行いました。そのデータは今も大事に保管しています。調査で一番多かったのは、茅葺き民家にお住まいの方から、「何をしているんだ?」とお電話をいただいたこと。調査の趣旨を説明

すると、ほとんどのの方が茅葺きへの愛着、次世代には残せない悔しさ等の思いを語られ、胸が熱くなりました。

この調査結果は大きな反響がありました。大手新聞社や地方テレビ局、写真家や研究者等から問合せが相次ぎ、今でも茅葺き特集を組むとなれば問合せがきます。そして私自身の刺激になったのが、調査にご協力いただいた方々や茅葺き職人さんとの出会いです。元氣いっぱいな方々ばかりで、お会いしてはいつも元氣を貰います。

私の所属する団体は、都市と農山漁村の交流をテーマとした事業や6次産業化を支える地産地消の取組みを支援する事業等を行っています。茅葺きとは直接関係ないことでも、色々な情報が混ざり合うことで、新たな茅葺きの保全・活用のヒントが生まれるのではないかと思います。これからも当協会の活動を通じて、茅葺きを愛する多くの皆さまと出会うこと、心から楽しみにしています。



理事の紹介

茅葺きとわたし

里山建築研究所 建築士

上野 弥智代

事務局担当理事の上野弥智代です。ダブル上野でよろしくお願いいたします!

まだ建築を学ぶ学生だった頃、宮城県北上町でのシンポジウム「茅葺きの明日を考える」に参加したのが、当協会の前身である茅葺きネットワークとの出逢いでした。そのときの会のみなさんの茅葺きに対する熱意と楽しく活気ある雰囲気がとても印象的で、こんな面白い世界があったのかと帰りの車の中でひとり興奮したことを覚えています。以来、事務局補助から事務局として、毎年この会に参加し続け、神戸市、白川村、美山町、塩山市、石岡市、鹿島市、下郷町、神戸市、南砺市、南九州市、天栄村、と、これこれ12年以上が経ちました。ここでの茅葺きに熱いみなさんとの出会いが、今も私の大きな原動力となっています。

もともと伝統的な木造の建築構法や民家に関心があり、建築を学び始めました。そして、建築構法から森林資源の循環へ、そしてこの茅葺きに出会い、草資源の循環へとつながり、その職人の技にすっかり魅了されました。

茅葺きのことをもっと知りたい、知り

合った職人さんたちにまた会いたいという思いで、はじめは茅葺きの葺き替え現場に見学に行っていました。そのうち、地元つくばで毎年茅刈りをするようになり、さらに古民家再生の仕事で、茅葺き屋根を新しく下地から丸葺きする機会も出てきました。その度、みんなで竹を切り、わらを集めて、茅を刈り、茅の下ごしらえをして、屋根を葺いてもらう。屋根が無事葺き上がるまでは、夢に見るほど茅が足りるかどうかが心配です。でも、考えてみたら、刈り取ればまた次の年には2、4メートルにもなつて屋根葺きの材料となる草というのは、なんとすごいものでしょうか。それに、がんばれば私にも刈ることができるのです。

草を茅にするための茅刈りに、もっともっと参加してもらえよう、全国で茅ガールを増やしたいと思っています。(もちろん茅男子も)

そして、当協会の活動を通じて、みなさんと出会い、全国各地の茅刈りと茅葺きの技、その文化をみなさんから学び、ともに活動できることに心から感謝しております。



第一回茅葺きの里見学研修会

新潟県佐渡市にて

荒海の向こうの茅屋根めぐり

柳沢道生

11月第2週の週末、日本海地方の天気予報は荒模様であった。月の初め、中国北京周辺に58年振りの時ならぬ豪雪をもたらせた寒冷渦の残滓が、日本海を徘徊しているという。防寒と雨対策の支度をしておかけた。

11月10日(土)・11日(日)に開催された、第1回「茅葺きの里見学研修会」に参加した。舞台は佐渡である。10日午前、新潟港に向かっていると、事務局の上野さんから電話で、予定していた両津港行きの高速船・佐渡汽船ジェットフォイルが欠航だという連絡をいただいた。1時間後に出発するフェリーは運行されるという。高速船なら新潟港と両津港間は1時間ほどだが、フェリーは2時間半もかかる。見学行程の変更はやむをえない。無事に両津港に集合。バスで国道350号を南西に約30分、田舎道を北に10分ほどで北條家住宅に着く。18世紀後半築、茅葺き寄棟造り直家の主屋は国の重文。形の整った茅葺き土壁の長屋門、庭の蔵は国の登録文化財である。思想犯として



▲北條家住宅 (国重文・18世紀)

佐渡に流された北條家の祖、道益は漢方医となり、赦免後この屋敷を建てたという。室内にそれとなく乗物・駕籠が展示されていた。往診に使われたのか。乗物が許されたのは武士でも重臣に限られていた。初代以降の北條家当主・歴代道益の、佐渡国におけるステータスがうかがい知れる。

バスで10分余、妙照寺に着く。佐渡に流された日蓮が、日蓮宗の教義を確立した一谷に、弟子の日静が建立した寺院である。日の落ちかかった秋の夕刻、紅葉を前にした茅葺きの本堂が映える。境内を散策、茅屋根ではないものの、経蔵などの堂宇にも見るべきものがあった。再び国道350号に。真野湾沿いに南

西へ小木港に向かう。すでに日は暮れた中、温泉施設・おぎの湯へ。食事・宿泊の設備もある総合天然温泉施設が390円で利用できる。東京の銭湯450円より安いのだ。

宿泊は宿根木の、若いご夫妻が営む民宿高山。夕食は6日に解禁されたズワイガニはじめ、日本海の幸が並ぶ。ハウスワインならぬ「高山」ラベルの冷酒がその味わいを一層ひきたててくれた。

食後の囲炉裏端、今回の旅のコーディネート・新潟市文化財保護審議委員・山崎完一さんのお話を聞く。「佐渡の文化と茅葺き」というテーマで、氏が関わった佐渡市神社建築悉皆調査から、相川地区から佐渡の北海岸にかけて美人が多いということまで、現地を熟知されている方ならではのお話はとても興味深かった。

11日朝、地元で文化財収集に携わられた高橋さんのご案内で、小木民俗博物館で原寸大に復元された千石船・白山丸から、旧小学校校舎に展示された文化財の数々を見学。次に、北前船の寄港地として栄えた重伝建地区・宿根木の町並みを歩く。帆船時代の風待ち港に適した地形、三方を丘に囲まれた窪地に家が密集、その中に復元された石置き屋根が点在している。細い路地に沿いの家には、船材の再利用があったり、船大工が余技として建てたりしたものもあり、宿根木は「船

大工の町」と呼ばれることにも得心が行く。公開民家、廻船主の家・清九郎、狭い地形を最大限に利用した三角屋、船大工の家・金子屋を見学。

佐渡島南岸の小木港、海のドライブイン・小木家で昼食。今、売り出し中のブリカツ井、なかなかいいける。

県道81号を北上、小佐渡の山並みを越えて、国仲平野の南近く、佐渡国分寺跡を過ぎ、国分寺へ。茅葺きの山門が我々を迎える。紅葉の境内の奥に茅葺きの瑠璃堂、寛文6年(1666)建立、県指定文化財である。境内には茅葺きの庫裏、長年の風雪の故か、よく見ると歪みがある。

バスで数分先の妙宣寺へ。ここも日蓮宗の古刹である。国の重文・県内唯一の五重塔で名高いが、山門、庫裏、白壁の蔵と、茅葺き建築群も見応えがあった。

さらに、バスで数分の大膳神社、境内には国仲四所の御能場の一つ、現在も薪能が行われる茅葺きの能舞台。佐渡には



▲国分寺瑠璃堂

30余の能舞台が残る。佐渡に能が普及したのは、猿楽師の家系の出とされる大久保長安が金山奉行として赴任したことによるといふ。神社の南側を散策すると、思わぬ発見。茅葺き民家2棟、そして近くの世尊寺境内には茅葺きの長屋門もあった。これは嬉しかった。

そして帰路。今日、ジェットfoilは無事運行されていた。「海は荒海、向こうは佐渡よ…」の天候だった昨日は欠航で、予定の茅葺き建築の見学は、一部できなかったが、大膳神社付近での茅葺き建築3棟の発見もあった。殆ど降られることもなかった。これも旅なのだろう。などと考えていたら、船は新潟港に着いていた。



▲大膳神社能舞台にて

研修に参加して

上田 進

一度は行ってみたいと思っていた佐渡だったのですが、またない機会でした。

印象として、佐渡は広い、豊饒、そして文化度の高い地であると思いました。

見学した茅葺き民家、寺院、能舞台等々の茅葺き屋根は共通して寄せ棟の単純な意匠、実にシンプルな棟でした。そこに質素で品の良い庶民的な親しみを覚えます。

まだまだ島内には相当数の茅葺き屋根の建物が現存しているのではないかと推測します。葺き替えも昔は本土から職人を呼んでいたようですが、今は島内の茅葺き職人さんが全て賄っているとのこと、頼もしい限りです。

ただ、最後に見学した大膳神社能舞台の近くで見かけた3軒の茅葺き民家がどれも無人状態だったのが気がかりでした。それにしても民宿での交流会は実に有意義で楽しかったです。ホロ酔い気分でした。聞いた講座「佐渡の文化と茅葺き」では半分ウトウト、山崎先生ゴメンナサイ。今回は、家内と広島から新潟まで片道900kmをドライブ、皆様のご好意に家内共々感謝しております。

研修に参加して

(株)高田造園設計事務所 竹内和恵

この度は、茅葺の里見学研修会に参加させていただきありがとうございました。

二日間と佐渡を巡るには少ない日程ではありましたが、国の重要文化財である茅葺民家や佐渡の造船資料館、神社能舞台と充実した二日間でした。参加されていた方々も各地域から来られていたようで、本当に楽しく勉強させていただきました。

さてさて、数々の財宝伝説残る日本海側地域、その中でも佐渡というのは私にとって秘境の1つでございました。ジェットfoilで1時間ちよつと、大昔は縄文時代、山内丸山遺跡などの遠隔地との交易があった頃と比べると、当時の人たちはさぞや驚かれることと思ひながら、私自身も海を跳んでいくような心地(当日悪天候の荒波のせいもあり)でございました。

初日は天候の関係でトキ保護センターから始まり、清水寺、北條家、妙宣寺とまわり、二日目には千石船の里である宿根木、茅葺のお寺(省略)、竹田・大膳神社能舞台とめぐり、佐渡の風土、歴史、建築について教えていただきました。移動中、バスから見る景色は島であることを忘れてしまうほどの、田園と山の風景。今回見学させて頂いた建物も周囲の自然

の中で実に凛々しい佇まいを見せてくれました。

宿泊地周辺を散策時には、海岸のマツ林はもちろん、少し離れたところではタブノキ林を見つけることが出来ました。タブノキというのは、鎮守の森(人の手が加わらない、潜在自然植生の森)によく大木となり育っています。沖縄、九州地方から東北地方と分布が広く、とくに海岸近くに多く、照葉樹林の代表樹種の一つであります。

今回は佐渡の最南端小木海岸付近での宿泊でしたが、最北端に近い驚崎漁港周辺では、タブノキを「タノモキ」と呼びます。このタノモキの林をクロモリ(林床が真っ暗なので)と呼び、付近の村人は出漁の時、沖合からの村の「導」とし、無事漁から帰れるよう『クロモリのタノモキは伐るな』と昔から大事にして、言い伝えていたようです。と、この地の植生からもわかるように、佐渡で見た風景というのは私たちがずっと生まれる以前から守り伝えられてきたものなのだと知り、建物から周りの自然から「日本の原風景」の美しさを改めて感じる研修会になったのです。

民話や芸能の宝庫である佐渡、二日間の見学では見られなかった所もたくさんありますが今回をきっかけに是非また散策してみたいと思いました。

カヤカヤワークショップ

@金沢湯桶茅場「茅束ね体験」

秋に刈りとった茅は、乾燥させてから束ね、茅の葺き替えまで保管します。茅をきれいに整え、束ねる作業を体験します。

■日 時：平成 25 年 1 月 19 日（土）、26 日（土）10 時～13 時

■場 所：金沢湯桶茅場 茅のストック小屋など

■集 合：9 時 30 分 金沢湯桶江戸村駐車場

■講 師：野村泰三氏（茅葺き職人 かやぞう代表）

■参加費：無料

■服装・持ち物：動きやすく暖かい服装、軍手、昼食、飲物

■申込み：参加日、連絡代表者の氏名・住所・連絡先（電話番号・FAX 番号・メールアドレス）、全参加者の氏名・年齢（保険加入のため）をご記入の上、FAX もしくはメールでお申込みください。

※1 月 14 日（月・祝）締切り

NPO 法人石川県茅葺き文化協会

FAX / 076-280-1457 メール / tao@spacelan.ne.jp

茅刈りボランティア

「カヤカヤ団」団員募集

石川県茅葺き文化研究会では、茅葺きの文化を守り、金沢湯桶茅場の保全に努めようと、ボランティア「カヤカヤ団」を結成しました。秋から冬にかけて、カリヤスを刈り、束ねる作業を行い、春から茅葺き技術継承公開講座を開催し、実際に茅葺き屋根の修復などを行っています。男女問わず、学生からご年配の方まで、誰でもご参加できます。集落内で助け合って屋根を維持する「結い」の文化にかわり、「カヤカヤ団」として金沢湯桶茅場を守っていきませんか。

■登録方法：連絡代表者の氏名・住所・

連絡先（電話番号・FAX 番号・メールアドレス）、全参加者の氏名・年齢をご記入の上、FAX もしくはメールでお申込みください。ご登録後、活動の詳細をご連絡します。

NPO 法人石川県茅葺き文化協会

FAX / 076-280-1457

メール / tao@spacelan.ne.jp



茅葺き体験教室

世田谷区次大夫堀公園民家園

■日 時：2013 年 1 月 27 日（日）軒葺き体験

2013 年 3 月 10 日（日）平葺き体験

すべて (1)10:00～12:00 (2)13:00～15:00

■場 所：世田谷区次大夫堀公園民家園

（東京都世田谷区喜多見 5-27-14）

■協 力：民家園ボランティア「茅葺き研究会」

■問合せ：世田谷区教育委員会 民家園係 03-3417-5911

■申込み：参加自由 当日直接会場にお越し下さい

ニュース

筑波流茅葺き職人の廣山美佐雄さん

国の卓越した技能者表彰を受賞

当協会の正会員である廣山美佐雄さん（81）が平成 24 年度「現代の名工（卓越した技能者）」として厚生労働大臣より表彰されました。

受賞の概要

筑波山周辺の茅葺き屋根は「大名ぐし」「トオシモノ」など、全国でもまれにみる技巧的、装飾的な特徴をもち、文化的・学術的価値も高い。廣山氏は現役で活躍する筑波流茅葺き職人のなかでも、技の早さと正確さ、屋根ごとに対処する応用力、完成した屋根の堅牢さと美しさなどの点で、とくに優れた技能を持つ第一人者である。現在も屋根上の第一線に立ち、同時に後継者も育成しており、技術の継承保存にも尽力する指導的立場の職人といえる。

祝 卓越した技能者の表彰式



（編集後記）

全国の茅場では茅刈りが終わり、ホッとひと息ついている頃でしょうか。日に日に寒くなり、もうすぐ本格的な冬が到来しますが、皆さんはお元氣にお過ごしですか？ 今回の「茅ふきたより」では、大好評の巻頭インタビューや、隠れた人気？の理事紹介に加え、第一回「茅葺きの里見学研究会」の報告を三名の方にしていただきました。読めば、訪ねたくなること間違いなしです。（内海）

茅ふきたより 第8号

2012 年 12 月 1 日発行（非売品）

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会

編集：茅ふきたより編集委員会

一般社団法人日本茅葺き文化協会

〒300-4231 茨城県つくば市北条 184

TEL/FAX 029・867・5829

E-mail info@kayabun.or.jp

URL http://www.kayabun.or.jp

◎みなさんの情報をお寄せ下さい！

茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。

茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。